

# 裏切られ捕らえられるイエス

ルカ福音書22:47-53  
(新改訳2017訳)

22:47 イエスがまだ話をしておられるうちに、見よ、群衆がやって来た。十二人の一人で、ユダという者が先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして近づいた。  
22:48 しかし、イエスは彼に言われた。「ユダ、あなたは口づけで人の子を裏切るのか。」  
22:49 イエスの周りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ、剣で切りつけましょうか」と言った。  
22:50 そして、そのうちの一人が大祭司のしもべに切りかかり、右の耳を切り落とした。  
22:51 するとイエスは、「やめなさい。そこまでしなさい」と言われた。そして、耳にさわって彼を癒やされた。  
22:52 それからイエスは、押しかけて来た祭司長たち、宮の守衛長たち、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って出て来たのですか。」  
22:53 わたしが毎日、宮で一緒にいる間、あなたがたはわたしに手をかけませんでした。しかし、今はあなたがたの時、暗闇の力です。」

## 【祈りながら考えよう】

- (1) ユダはどんな合図でイエスを捕らえようとしたか。
- (2) イエスがご自分を守ろうとすれば、どんなことができると語られましたか。
- (3) イエスは逃げようとせず、自らを敵の手に渡したのはなぜですか。

### 【解説】

#### (1) イエスを捕らえる合図

《イエスがまだ話をしておられるうちに、見よ、群衆がやって来た。十二人の一人で、ユダという者が先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして近づいた。しかし、イエスは彼に言われた。「ユダ、あなたは口づけで人の子を裏切るのか。》

#### ①合図を決めていた

主を捕らえるために、十二弟子の一人であるユダが先頭になって、一隊の兵士と、祭司長たちやパリサイ人たちから送られた下役たちを連れ、明かりとたいまつと武器を持って、園にやって来た(ヨハネ18:3)。

ユダは彼らと前もって合図を決めていた。「私が口づけをするのが、その人だ。その人を捕まえて、しっかりと引いて行くのだ」(マルコ14:44)。みんなはどれがイエスだか知らないし、しかも夜のことであるから、はっきり見分けがつかない。それでユダはあらかじめ合図をしておいて、イエスを捕らえさせようとした。その合図が口づけである。口づけは最も親愛の情を表すしるしである。

#### ②冷徹なユダ

ユダはイエスを裏切るということについて、徹底的に割り切っていたかということが分かる。普通は、どこか、こそごと、人の陰に隠れて、指図して、あれだ、あの人が、あれを捕らえろというふうに言う。たとえ捕らえさせるにしても、白々しく口づけなどをもって合図することはできるものではない。

イスカリオテのユダという人は、いかに事を割り切っていく、冷徹な存在であったと言える。ペテロやヨハネのような人には、到底真似の出来ないことである。

ユダはイエスに近づき、「先生。こんばんは」と言って口づけした。イエスはユダに、「友よ、あなたがしようとしていることをしなさい」(マタイ26:49-50)、また「ユダ。口づけで、人の子を裏切るのか」(ルカ22:48)と言われた。

#### (2) 十二軍団よりも多くの御使いを、今すぐ配下に置くことができないと思うのか

《イエスの周りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ、剣で切りつけましょうか」と言った。そして、その

うちの一人が大祭司のしもべに切りかかり、右の耳を切り落とした。するとイエスは、「やめなさい。そこまでしなさい」と言われた。そして、耳にさわって彼を癒やされた。》

#### ①自分の身を守ろうとすれば出来る

シモン・ペテロは、事の成り行きを見て、「主よ、剣で切りつけましょうか」と言って、大祭司のしもべマルコスに切りかかり、その右の耳を切り落とした。

そこで、イエスはペテロに、「やめなさい。それまで」(51節)と言い、

「剣をさやに収めなさい。父がわたしに下さった杯を、どうして飲まずにいられよう」(ヨハネ18:11)、  
「剣を取る者はみな剣で滅びます。それとも、わたしが父にお願いして、十二軍団よりも多くの御使いを、今すぐわたしの配下に置いていただくことが、できないと思うのですか。しかし、それでは、こうならなければならないと書いてある聖書が、どのようにして成就するのでしょうか。》(マタイ26:53-54)。

もしわたしが身を守ろうと思うなら、神の子の權威において、天の軍勢をここに呼ぶことの出来ない者だと思っているのかと、イエスは弟子たちに言われた。十二軍団といえば、ローマの軍組織において、一軍団は約5,6千人、これをレギオンと言う。1レギオンは5,6千人からなる一軍団である。

だから天の御使いたち十二軍団といえば、実に大勢の軍勢である。これを今、この瞬間、ここに呼ぶことができないものだと思っているのか、イエスは神の御子である。だから身を守り、敵を防ごうとするなら、なんでもできる。

#### ②ご自分を差し出すイエス

しかし今、そうしてイエスが身を守られたら、どうなったか。聖書の言葉は成就しないことになる。それだけではない、全人類の救いはここに成らない。

イエスはこの少し前、ゲッセマネの祈りの場であって、そのことをはっきりなさった。だから指一本出して自分の身を守ろうとしない。いっさい自分を守らない。そのまま自分を差し出していかれるイエスである。守ろうとすれば、どんなことをしても守れる。全世界が束になってかかっても、イエスを打ち負かすことはできない。

イエスは、ペテロが霊的な戦いに肉の手段を用いたことを戒められた。主の時はすでに来ていた。神が前もって定められた計画は実現しなければならなかった。

恵み深いイエスは大祭司のしもべの《耳にさわって彼を癒やされた》。



#### (3) 神は闇のわざをも用いることのできるお方

《それからイエスは、押しかけて来た祭司長たち、宮の守衛長たち、長老たちに言われた。

「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って出て来たのですか。わたしが毎日、宮で一緒にいる間、あなたがたはわたしに手をかけませんでした。しかし、今はあなたがたの時、暗闇の力です。》

イエスは、自分の身に起ころうとするすべてのことを知っておられたので、ご自分から出て来て、「だれを捜すのか」と彼らに言われた。彼らは「ナザレ人イエスを」と答えた。イエスは彼らに、「わたしがそれだ」と言われた。

すると彼らは後ずさりし、そして地に倒れた。そこで、イエスがもう一度、「だれを捜すのか」と問われると、彼らは「ナザレ人イエスを」と言った。イエスは、「わたしがそれだ、と言ったではないか。わたしを捜しているのなら、この人たちは去らせなさい」と答えられた(ヨハネ18:4-8)。

《イエス》はユダヤ人の指導者や役人たちに向かって、「なぜ逃亡中の《強盗》を捕らえるかのように《やって来た》のか」と問いかけられた。主は《毎日宮で》教えておられたのに、なぜそのとき捕らえようとしなかったのか。

しかし、主はその答えを知っておられた。主は《今はあなたがたの時です。暗やみの力です》と言われた。木曜日の真夜中の出来事であった。

神はこの闇のわざをも用いることのできるお方である。この御子を殺す者の手に渡し、この闇のわざに渡していかれる。そして闇はこれに打ち勝ったかに見えるが、この神の御子を殺すことにおいて、そして神の御子が復活することにおいて、闇の支配は完全に破れ果てる。

人間は、この闇の世界、罪の世界から、どうしようもないこのしがらみから救われる道を、イエスの死と復活においてそこに開かれた道において、はじめて見いだすのである。

主がお受けになった「宗教裁判」には3つの段階があった。まず、主はアンナスの前に、次にカヤパの前に立たれた。最後に、サンヘドリン(ユダヤ人最高議会)の前で罪状の認否を問われた。ここから65節までの出来事は、おそらく、金曜日の午前1時から5時の間に起こったのだろう。